

目次

1. 巻頭言：院長のご挨拶
2. 医師紹介
3. 医療マネジメント学会を終えて
4. MRI装置の紹介
5. 宮崎市総合防災訓練を受けて
6. 国立病院総合医学会に参加して
7. 宮崎東病院プレイバック！
8. 編集後記

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。

宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻頭言

院長のご挨拶

職員の皆さま、令和5年度をどんな年にしますか

スポーツキャンプ、特にWBCの狂騒がすぎて、コロナも消えて無くなったかのような日常が戻ってきました。暖かく穏やかな毎日に気持ちも緩みがちです。一方、世界ではいまだロシアによる侵略戦争が続き、大震災を彷彿とさせるトルコの大地震が起きました。私たち日本人にとっては天災、とくに地震・津波を決して忘れるなという啓示でした。このところ国立病院機構の労務をめぐる問題がネット等を賑わせています。非日常の医療体制が続いたこの3年のなかで、職員の皆さんにご負担をおかけしたのは事実ですので、労務に不満が溜まっていることは理解しています。院長はじめ管理職一同は、常日頃から労務の問題に真剣に向き合い、年休や産休、育休などを取り易く、超勤等が制限を超えないように、特定の職員に負担が集中しないように努力しています。NHOは人を守り育てる組織です。20年以上勤務してきた医師としても新任院長としても、この点には確信があります。職場の労務環境に疑問や不満があれば、まずは上司に相談してください。

診療においては、コロナとインフルエンザの予防接種が一段落し、面会や外出・外泊の制限、職員個人の移動や生活一般に関する制限を徐々に緩和する方針です。院内におけるコロナクラスターがゼロという輝かしい実績は継続したいところですので、ご自分でできる感染対策は続けてください。

新年度には外来棟の改修工事が本番を迎えます。健診施設を新設し、診療スペースを拡充します。電子カルテを更新し、出退勤、勤務時間管理システムを導入します。職場環境は一層改善されます。ところで先日の予期せぬ停電事故は、電気や医療ガスシステムの意外な脆弱性を教えてくれました。震災におけるBCPというテーマが今後の宿題になります。

新任院長として1年経ちました。複数の問題を抱えるなかで、やはり人の確保が最大の難関です。来年度も引き続き医師のリクルートに注力します。皆さんが日々の診療においてなるべく多くの実績をあげることが、病院の存在意義を高め、当院に勤めたいという医師や看護師を増やす道であるとも感じます。コロナ前を超えるような、地に足をつけた、地域の求めに応える診療をお願いします。



院長
伊井 敏彦

令和5年3月 院長 伊井敏彦

新しく着任した医師をご紹介します！

2023年1月より宮崎東病院 脳神経内科へ赴任いたしました宮本美由貴と申します。当科鈴木先生の復帰までの半年間、勤務させていただきます。

宮崎市出身で、宮崎大学を卒業し、脳神経内科(旧第3内科)へ入局しました。宮崎東病院の建物が新しくなった6年前にも一度勤務させていただいております。その後、宮崎大学医学部附属病院 脳神経内科に戻り、結婚して2人の子供にも恵まれ、神経内科専門医を取得し、こちらに戻って参りました。久しぶりに先生方や医療スタッフの方、以前担当させていただいた患者さまにお会いできてとてもうれしいです。この6年間で体重も増えてしまったので、少しスリムになることもコツリ目標にしています。まだまだ浦島太郎状態ではございますが、今年でちょうど卒後10年目にもなり、少しでも皆様のお役に立てればと存じます。

短い間ではありますがどうぞ宜しくお願い致します。



神経内科医師
宮本 美由貴



小児科医師
古郷 ほずみ

令和4年11月より、児童精神科に配属となりました古郷ほずみです。所属医局は宮崎大学医学部附属病院小児科ですが、こどもの神経発達症を中心に児童精神医学を学びたく、この度、同院児童精神科にご指導いただいております。

私生活では4人の子育てに、文字通り“奮闘”しておりますが、娘とフラダンスをしたり、ヨガインストラクターの資格を活かしてヨガをしたりして、気分転換しております。着任して2か月がたちますが、児童精神科、小児科両面で、学びの日々で、楽しく働かせていただいております。児童精神科、小児科の先生方にはもちろんですが、他科の先生方にも相談しやすい環境であり、ありがたく感じております。

これから、地域の子供たちが生きやすいよう、頑張っていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

日本医療マネジメント学会 第15回 宮崎県支部学術集会を振り返って

会長 塩屋 敬一



この3年間、社会も病院も個人も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、行動制限により疲弊し、想像を超えた苦痛を味わった。今も感染自体は続いているが、本年5月8日には感染症法の扱いが変わり国全体の復興が始まる。

本学術集会はこの節目の時期に「コロナ禍からの脱却を見すえて」と題して、Webではない従来型の会議形式で開催された。

来賓の清山知憲宮崎市長は、コロナ禍の中の「2022年まつりえれこっちゃみやざき」再開の苦勞を紹介された。

基調講演をされた国立病院機構理事、長谷川好規先生は新型コロナウイルス遺伝子の特徴、生物学的な宿主、感染症自体の歴史、対策など幅広い骨太の話をされた。

当院からの3演題では、「難病法」が普及の時期に打撃を受けたこと、病院の感染状況・対策の総括、児童精神科のこれまでとコロナ対応について、それぞれの被った経験が述べられた。

またファイザー社からワクチン搬送や接種で経験した経過・問題点について演題発表があり関心を呼んだ。

一般演題数は44題、最終参加者171名で、この感染対策下の時期としては十分な参加を得たのではないかと考えている。内容の評判もよかった。

当会理事会の意向を受け、「選択一般演題」という枠を儲けて発表者を表彰する試みも行った。これは皆の励みになったのではないかなと思う。

回収アンケート52枚中、16枚に書き込みがあり、改善のご指摘も受けた。特に会議室が狭く、中に入れない、密集していたなどのご意見は誠にその通りだったと反省している。必ずフィードバックしたいと考えている。

これからの各病院には大きな期待がかかる。しかし社会も病院も病み上がりの状態であり果たして十分に対応できるのか、また感染からの脱却を目指しながら、今後も新型コロナウイルス感染症を抑え切れるのか大きな課題である。

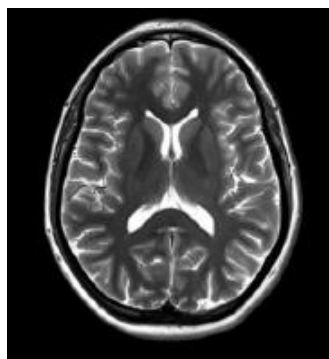
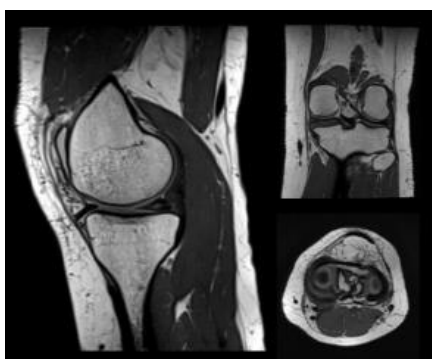
運営にあたり病院を挙げて支援をいただいた皆様に感謝申し上げたい。この会がお一人お一人の貴重な記憶になればと願っている。



MRI 装置の紹介 ～患者負担軽減と画質向上を目指して～

副診療放射線技師長 神門 伸幸

令和4年2月より当院ではMRI装置の更新がありました
が、更に高画質な画像を提供できるように昨年度9月頃に膝や
肩関節領域に使用可能なコイルを補充致しました。これにより、
従来のコイルと組み合わせることによって自由度が向上し、検査
範囲の制約を解消し、色々な領域を撮影することが出来るよう
になりました。また、当院のMRI装置は深層学習(Deep
Learning)と呼ばれるAIを活用した画像再構成技術の
「Deep Resolve」が可能な装置であります。このAIを活用し
た画像再構成技術は先進的なものであり、「Deep Resolve
Gain」と「Deep Resolve Sharp」が含まれています。「Deep
Resolve Gain」はMR画像のノイズを除去する技術でノイズを抑え信号を高くしてくれます。「Deep
Resolve Sharp」は空間分解能を向上させる技術であります。この二つの技術により短時間で信号が高く
分解能の高い画像を得ることが出来ます。この技術を活かし、コイルの補充を行う際にすべての撮影項目で
活用できるように見直し、従来以上の撮像時間の短縮や薄いスライス厚での撮影を行うことが可能になり、た
くさんのメリットが増えました。以前からMRI検査を受けていた患者様も「検査時間が早くなった」や「楽に
なった」などのお声も頂いております。それ以外にも動きによる画像のボケの補正をする技術や画像の歪み
を抑える技術、人工関節等の体内金属によるアーチファクトを抑える技術などが当院のMRI装置には備わっ
ております。今後もこれら技術を最大限に活かし、患者負担を軽減させ、画質向上に努めて参ります。



令和4年度 宮崎市総合防災訓練を受けて

1階病棟 首藤 淳一郎

日時 令和5年1月29日 9:30~12:00

会場 大淀川市民緑地・河川敷

目的

・災害時における各防災関係機関の適切な役割分担と相互に連携協力した実効性のある対応策の共有、平時からの防災関係機関の連携強化

・官民連携による実動訓練を通じてその実効性を確認する機会とする

・市民の防災に関する意識の高揚を図る機会とする

訓練想定:南海トラフ地震による被害を想定した訓練

訓練内容:傷病者の救助やトリアージ



今回上記の日時・目的で宮崎市が主催する災害訓練に日本赤十字社 宮崎県支部 常備救護班員として、石山雄一郎副院長、荒木智明看護師、興梶伸也診療情報管理士とともに参加してきました。3年毎に行われている総合訓練であり、警察、消防、自衛隊等をはじめ、宮崎市と協定を結んでいる様々な職種、35機関が防災訓練に参加しており、宮崎市民の自治会の方も参加されていました。今回の訓練では南海トラフを震源とする震度7の地震と津波が来た想定で行われ、私達は30分間の訓練でしたが、消防隊が現地でトリアージして運ばれてきた被災者を2次トリアージして医療機関へ優先順位を決定し搬出するまでの訓練でした。

今回の訓練で感じた事は、個人的には頭では理解できていても、常日頃からトリアージ等の訓練をしておかなければ、実際の被災した際に動けない事を痛感しました。全体の訓練を通しては被災時には迅速に救助・ライフライン等の復旧ができるように様々な職種の連携強化が図れている事を感じ、今後も災害訓練に参加できる機会があれば率先して参加し、自己研鑽に努めたいと思いました。



第76回 国立病院総合医学会に参加して

地域医療連携室 ソーシャルワーカー 甲斐 千啓

2022年10月7日・8日、熊本県にて第76回国立病院総合医学会が行われ、コロナ禍では初めての対面開催となりました。

今回私は、「神経筋難病患者に関わる医療職の困難感とやりがい」というテーマのシンポジストとして参加しました。このシンポジウムは、神経筋難病患者の生活を支える医療を経験したことのない医療者に現状を知ってもらうこと、難病医療に関わっているスタッフの誇りと自信につなげること、若い世代に興味・関心を持ってもらい、政策医療に関わる職員の確保につなげることを趣旨に行われました。

私は神経筋難病患者との関わりから感じた意思決定支援の重要性について話題提供をさせていただきました。緊張の中の発表でしたが、会場に伊井院長がいてくださり、大変心強かったです。

意見交換の中で、会場から疾患の受容に悩む患者への向き合い方に対する質問や、医療の進歩により病院ではなく地域で療養が可能となったケースが増えてきたことに驚きを感じている等の意見をいただくことができました。

今回参加したことで、他施設の現状や取組み等を知ることができ、貴重な経験を積むことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

令和4年度 宮崎東病院プレイバック！

April

- 1日(金) 辞令交付式
新採用者オリエンテーション(6日まで)
- 18日(月) 医教連携協議会(オンライン開催)



June



August

- 4日(木) MRT「Check!」に院長インタビュー放送
- 5日(木) 1階病棟夏祭り



October

- 3日(月) 特定行為研修開校式
自治会避難訓練打合せ
- 4日(火) メディカルケアビット導入!
- 7日(金) 第76回国立病院総合医学会(熊本)
- 8日(土) 第76回国立病院総合医学会(熊本)
- 13日(木) 第16回開放型病院登録医運営協議会
- 31日(月) NHO 医療安全病院間相互チェック

December

- 7日(水) QM 活動発表会
- 19・21・22日(月・水・木) 療養介護病棟クリスマス
- 28日(水) 仕事納め式

February

- 4日(土) 宮崎県医療マネジメント学会



May

- 11日(水) MRT「おしえて!みやざき」にて放送!



July

- 7日(木) 赤江老人福祉センターでの出張講座「おくすりのはなし」



September

- 8日(木) 宮崎東病院周辺地域住民等災害対策情報交換会



November

- 4日(金) 日本医療マネジメント学会 第20回九州・山口連合大会
- 5日(土) 日本医療マネジメント学会 第20回九州・山口連合大会
- 6日(日) 地域住民等津波避難訓練
- 7日(月) 特定行為研修に関する施設見学(南九州病院)



January

- 4日(水) 仕事始め式
- 29日(日) 宮崎市総合防災訓練



March

- 24日(金) 特定行為研修修了式
- 31日(金) 辞令交付式



編集後記

今年度もまだまだコロナに振り回された感はありますが、1年間の行事を振り返ってみると、学会や就職説明会など、現地開催や対面でできることも増えてきました。WEBでの開催は、行き来の手間もなく案外便利だと感じていたところでしたが、直接会うからこそできる懐かしい方たちとの話は心温まるものだと実感しています。

あちらこちらで、菜の花や梅の花を見かける季節になりました。昨年は、引越越してきたばかりで桜をみる余裕もなかったのですが、今年は宮崎の桜を楽しみたいと思っています。これからも「ニュース宮崎東」をよろしくお願いいたします。

編集委員 K・N